

統計豆辞典

「ニート [NEET]」について

学校にも行かず (Not in Education)、働いてもないし (Employment)、職業訓練にも参加していない (Training) 若者を意味する言葉の略語。1990年代イギリスで生まれた言葉ですが、近年の日本においてもその存在が注目されています。

厚生労働省が9月に発表した2004年版『労働経済の分析』(労働経済白書)において、ニートに相当する人の数を初めて集計した結果、2003年では52万人に達していることが分かりました。ニートには、いわゆる「ひきこもり」も含まれ、学校に在籍しながら通学していない場合もあるため、実際にはもっと多いとの指摘もあります。

ニートの増加は若年労働力の減少、つまり経済成長率を下げる要因になります。また、本来なら社会保険料を払うはずの若者が、逆に生活保護を受ける立場になりかねず、財政の悪化も懸念されます。さらに、薬物や犯罪に手を染めるなど社会問題の当事者となる可能性が高いことも問題視されており、国や民間あがての抜本的対策が求められます。